

魅力ある科目・講義を目指して—10年の軌跡

化学工学会 SCE・Net 堀中 新一

「知の市場」の前身となるお茶の水女子大学「化学・生物総合管理の再教育講座」の活動に化学工学会 SCE・Net (以下、SCE・Net) の一員として参加して以来、「知の市場」に至る10年間の個人の記録である。

2004年、SCE・Net 内で講義の準備が開始された。計画された科目の一つである「環境」に関する科目の世話人に指名され、以降10年間、この科目の講義と講師に対する支援を行ってきた。また、「環境」を含む複数の科目の講義を受け持つこととなった。この報告は、「環境」に関する科目と、その中で受け持った「ごみ処理」に関する講義について、その活動と変遷について述べる。

SCE・Net の社会人教育に関する取り組み姿勢を基本に、「環境」に関する科目は、日本におけるこの半世紀に渡る公害防止と環境保全への取り組みをケミカル・エンジニアの視点から解説し、それを現役社会人への伝承することにより、21世紀の発展に多少なりとも寄与されることを願い企画したものである。この科目は当初、2科目 30講義でスタートしたが、開催機関との調整により、主な分野の講義を中心に1科目 15講義に縮小され、更に1980年代以降の「地球環境」と「廃棄物」に関する講義に絞ると共に、新規講義を加え現在に至っている。また近年、リサイクル企業の工場見学を講義に取り入れ、現場体験とそれに基づく討論に時間配分をした。

2005年度14名で開講した講師陣は、講師の事情や講義の入れ替えなどにより、延32名の講師が講義に当たったが、2013年度まで3名が継続して講義を行なっている。退任講師の補充には、SCE・Net 会員の人脉を辿り、勧誘を行ってきたが、種々の制約があり獲得に苦戦している。

「化学物質物質」という科目構成から「ごみ焼却設備のダイオキシン対策」という講義名でスタートした担当講義は、その後「廃棄物処理への取り組み」の中の「多様化した都市ごみ処理」として、「都市ごみ処理」に焦点を絞ったものとした。その内容は歴史を縦軸にして、行政、技術など、その時代のごみを取り巻く環境を解説し、市民として、これからの「都市ごみ処理」のあり方を考察するための知識を得られるよう配慮し、年年資料を改訂追加してきた。教材の事前配布の開始により、講義資料説明の重点化を行い、生じた時間を追加資料のトピックスを解説し、討論の題材とし討議時間の充実を図った。小レポートは、受講者の意見、提案等を募る課題を提示し、受講者の了解のもと、その回答を匿名として回答者全員に送り、参加者間の意見交換の一助とした。

本科目は、2014年度も新しい世話人のもとで講師、講義内容の刷新を行い開講する。

この度、この活動に対して奨励賞を受賞し、年次大会において発表に機会をいただき光栄の至りであります。今日に至るまで、活動の場を提供頂いた開催機関および連携機関、聴講頂いた受講者に感謝いたします。